

令和 4 年 № 80  
夏おぼん号

# あきばさん

発行人 / 発行所  
秋葉山 新井 寺  
272-0144  
千葉県市川市新井  
1 丁目 9 の 1  
電話 047-357-8319  
FAX 047-357-8399  
mail: info@shinseiji.jp  
http://www.shinseiji.jp  
郵便振替 00150-2-282968

## お盆と梅花流詠讚歌

当山住持



年頭のご挨拶を申し上げたのがつい先日のことと思っていました。時の流れは早いもので令和四年も半分が過ぎ、盛夏七月のお盆を迎えました。

今夏は、六月の下旬より厳しい暑さが続き、すでに多くの人が「熱中症」で搬送され、生命や健康が危険にさらされている現状です。しかし、皆様方の大切なお盆には必ず帰って来られます。そして、信仰心を持って感謝報恩のご供養をとめられる皆様が平和に導いてくださいます。いうまでもなく、ご先祖様がいらつしやらなければ、私たちはこの世に生かされておりません。改めて生かされていることに思いを、願いをこめて、ご先祖様にこの上ないおもてなしのご供養をおつとめいたしましう。ご先祖様もさぞかし喜ばれ、皆様もさらにさらに功德法悦に浴されることと存じます。

さて、曹洞宗には檀信徒皆様への布教の一つとして「梅花流詠讚歌(御詠歌)」ばいかりゆうえいさんか ごえいかがあります。詠讚歌を通して一仏両祖様、歴代のお祖師様から伝わる仏道 おさと

りの世界を親しく学び、心豊かな人生を培う活動です。御本山・全国の御寺院・檀信徒の皆様幅広く親しまれ、法要などさまざまな機会に、和合して供養や祈りをこめてお唱えされています。今年、梅花流詠讚歌は七十周年を迎えました。

新井寺では、先代住職への報恩供養の思いから梅花講(御詠歌のグループ)が発足しました。また、平成二十九年より副住職が曹洞宗管長様より「梅花流特派ばいかりゆうとくは師範」を拝命し、全国の皆様に詠讚歌の巡講指導をさせていただいております。自身の修行とあわせ、檀信徒皆様への布教化にも精進させていただき、まことに尊く有難いご縁でございます。本年は、六月下旬の猛暑の中、もつともご縁の深い千葉県内を四泊五日の日程で巡回させていただきます。コロナ禍で心配されることもございましたが、無事に円成することができ、副住職もほつとしてい

ることと思えます。  
新井寺梅花講は、いつからでも、どんなさまでも、歓迎いたします。ご先祖様のご供養に、ご自身の心の安らぎや修養に、是非ご参加ください。お待ちしております。

合掌



主人公ミゲル（右）と高祖父ヘクター（左）  
Disney plus 公式サイトより

## 『リメンバー・ミー』に学ぶお盆の世界

### ◆ 映画『リメンバー・ミー』

『リメンバー・ミー』は、全米では二〇一七年に、日本では二〇一八年に公開されたデイズニーピクサーの長編アニメーション映画です。

キャッチコピーは「それは、時を超えて—家族をつなぐ、奇跡の歌。」。メキシコの「死者の日」、テーマパークのような陽気でカラフルな「死者の国」を舞台に「家族の絆」が描かれています。

### ◆ 亡き人へのおもい

#### ● 「二度目の死」

「死者の日」、主人公のミゲルは、あることから「死者の国」に迷いこみ、自分の高祖父（祖父の祖父・ひいひいおじいさん）ヘクターに「二度目の死—永遠の死」が迫っていることを知ります。

「死者の日」は、一年に一度、死者の国から亡くなった人びとが生者の世界の家族のもとに帰ってくる日です。死者が「生者の世界」へ行くためには、死者の日に、生者が祭壇に自分の写真を飾っていることが条件でした。

「二度目の死—永遠の死」。それは、生きている人たちの記憶からその人やその人の思い出がなくなってしまうときにやってくるといえます。写真が飾られていることが、その人が忘れられていない証あかしなのです。

### ● 目連尊者の母への供養

ヘクターは、生者の世界の誰にも写真を飾ってもらえていませんでした。生者の世界で、唯一、自分のことを憶えている娘は高齢で認知症もわずらっていて、ヘクターのことを忘れかけていました。このままではヘクターは永遠に消えてしまう。そのヘクターを救ったのがミゲルだったのです。

お盆の行事は目連尊者もくれんそんじやの亡き母への孝順のご供養にはじまると伝わっています。ある日、お釈迦様のお弟子様のひとり目連さまが、亡き母は、ほとけ様の世界でどうしているだろうか、神通力じんずうりきでその様子を見てみると、「餓鬼道がきどう」という世界で苦しんでいました。たいへん驚いて胸を痛めた目連さまは、母を救いたい一心でお釈迦様に相談すると、「夏の修行が明ける七月十五日に大勢の和尚様を招いて、たくさんのお供えの食べ物や飲みものなどをお供えして供養をすれば、母を救うことができよう」と教えてくださいました。目連さまがその教えの通りにつとめたところ、亡き母は苦しみの世界から救われたのでした。

死者の国の高祖父ヘクターを「二度目の死—永遠の死」から救いたいミゲルの





亡き人たちのへのおもいがつまった祭壇「オフレンダ」  
Disney plus 公式サイトより

せつなる願いとほとけ様の世界で苦しむ母を救いたいと一心に願う目連さまのおもいが重なります。国や文化は異なれども、亡き人を思う心、家族や親しい人を思う気持ち、皆のしあわせを願うおもいは、世界中どこにあっても、いつの時代も、同じなのです。

### ◆「死者の日」

「死者の日」は、十一月のはじめに行なわれるすべての亡き人に祈りを捧げるキリスト教の宗教行事です。とくに、『リメンバー・ミー』の舞台であるメキシコでは、伝統文化のひとつとなつています。十一月一日から二日にかけて（十月三十一日からとされる場所も）、街中はカラフルなガイコツや華やかな装飾が飾られ、露店や屋台も並びます。さらにバンド演奏やパレードなど、さまざまなイベントがにぎやかに行なわれます。

人びとは「オフレンダ」と呼ばれる祭壇をつくり、亡き人が好きだった食べ物ものや飲みもの、お花、お気に入りだった服やレコード、そして、亡き人の写真などをいっばいに並べます。お墓も念入りに掃除をして、お花などをにぎやかに飾ります。いたるところに、亡き人へのおもいと人びとの笑顔があふれます。

さらに、家族や親しい人たちがつどい、亡き人びとに思いを馳せて語り合うことが大切とされています。亡き人びとを称え感謝し、生きるよろこびをわかちあうのです。

死者の日には、亡き人が生者の世界の家族のもとに帰ってくる信じられています。日本のお盆とよく似ていますが、静かに偲ぶというよりも、皆が再会を祝つてよろこぶお祭りです。「死者の日」は、「死」を恐れるのではなく、一年に一度しか会うことができない亡き人びとともにも明るく陽気に楽しく過ごし、ご先祖様や亡き人びとのご縁、家族の絆を深める日なのです。

### ◆「マリーゴールド」

『リメンバー・ミー』では、死者の世界と生者の世界を結ぶ橋がマリーゴールドでつくられていました。また、死者の世界に迷いこんだミゲルが、生者の世界に帰るには、死者の世界のご先祖様の「許し」が必要でした。その許しに用いられるのもマリーゴールドでした。メキシコの死者の日において、マリーゴールドは、欠かせないお花です。

祭壇もお墓もたくさんマリーゴールドがあふれ、家先には亡き人びとが迷わずに帰つてこられるように、マリーゴールドの花びらがまかれます。どこか、日本のお盆の「迎え火」や「ほおづき」に通じるものが感じられます。

◆『リメンバー・ミー』に学ぶ  
「追善供養」の心

『リメンバー・ミー』を観ていると、

亡き人へのおもいがめぐってきます。

そして、亡き人との向きあい方、いま・

ここの生き方を学ぶことができました。

亡き人は「死者の国」で生きている。

いま、生かされている「生者の国」のわ

たしたちのおもいや行ないが「死者の

国」の亡き人をしあわせにするのです。

それを「追善供養」というのでしよう。

そのおもいが途絶えてしまえば、いつ

か、わたしたちが死者の国へ旅だった

ときに、ご先祖様や会いたい親しい人

たちに会えなくなってしまうのです。

そのことを思うとき、折にふれ、ことに

ふれ、亡き人におもいを手向け、向きあ

っていくということ。お供えするお花

一輪にもおもいをこめて、ほとけ様へ

のご供養をていねいにつとめたいとい

う気持ちがおのずと深くなります。そ

して、いつか、死者の国で再会したと

き、いのちを精いっぱい生きたという

充実した笑顔で再会できるよう、小さ

なこともおろそかにせず、あらゆるこ

とがらに、できるだけ、ていねいに向き

(副住職しるす)

これからのしんせいじの行持

どなたでも参加いただけます

九月二十三日 秋ひがん法要

十一月十八日 秋葉火坊大祭

十二月八日 釈尊成道会

十二月三十一日 年越し坐禅会

※ コロナ禍により、変更や中止となる

ことがあります。

● 月例坐禅会 毎月第四日曜日

午後三時から

● 月例写経会 毎月第四土曜日

午前十時から

● 梅花講 (御詠歌) 月二回

午前九時半から

※ 坐禅会・写経会・梅花講は、現在

お休みさせていただいています。

おねがい

お墓参りのお線香について

境内墓地へのお参りの際、持参

されたお線香でもお寺で火を

おつけしますので、お気軽にお

位牌堂の前の玄関にお声をおかけ

ください。

火の用心 へのご協力をおねがい

します。

編集後記



六月下旬に千葉県内(鴨川市・君津市・柏市・市原市)の梅花流詠讃歌の巡講指導

(特派講習会)をさせていただきました。

思いがけず猛暑となり、コロナ禍とあわせて

案ずることばかりでしたが、皆様のおか

げでなんとか無事に円成させていただきました

ことができ、安堵とともに感謝のおもいを

深くしています。

梅花流詠讃歌は、室内にずっと声を出

してお唱えをすることから、感染クラスタ

ーの発生が懸念され、コロナ禍においては、

活動の休止・中止を余儀なくされてしま

った。県内での特派講習会の開催はじつに三

年ぶりのことです。お休みの間、曹洞宗の

公式サイトでは、お唱えやお作法などにつ

いての動画配信が行なわれるなど、さまざま

な工夫がされてきましたが、梅花流詠讃

歌を学ぶ基本は、「面授相伝」です。指導

する者とされる者が、直接に向きあって学

ぶ。膝をつきあわせた生のやりとりの中に

こそその気づきや学び、そして感動があるの

です。それは、文字や映像でははるかに及

ばない世界なのかもしれません。久しぶり

にお仲間と再会し、ともにお唱えをする皆

様の笑顔と教場のあたたかい雰囲気、その

深さを改めて学ばせていただきました。暑さ

さきびしき毎日、ご自愛くださいませ。編集小子 合掌